

**PAT-NO: JP02003132224A**

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003132224 A

TITLE: AUTOMATIC SAVING SYSTEM AND AUTOMATIC SAVING METHOD

PUBN-DATE: May 9, 2003

**INVENTOR-INFORMATION:**

NAME  
MOTOYAMA, ATSUSHI

COUNTRY  
N/A

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

NAME  
NEC CORP

COUNTRY  
N/A

APPL-NO: JP2001326328

APPL-DATE: October 24, 2001

**INT-CL (IPC): G06F017/60**

**ABSTRACT:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an automatic saving system and automatic saving method for automatically saving a part of the sum of money to be withdrawn when withdrawing deposit money from the account of a financial institute.

SOLUTION: This automatic saving system and method comprises user terminals 10, 23 and 24 connected to a financial institute system (saving system center) 21 through a communication network 100. The financial institute system comprises an automatic saving processing means 21a for automatically saving a part of the sum of money to be withdrawn designated by a user through the user terminal 10, 23 when the user withdraws the deposit money from the financial institute account provided in the financial institute system. Accordingly, when the user withdraws, for example, 10,000 yen from its own financial institute account, 1,000 yen can be automatically saved as a fixed amount.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-132224  
(P2003-132224A)

(43) 公開日 平成15年5月9日 (2003.5.9)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	キーワード (参考)
G 0 6 F 17/60	2 3 4	G 0 6 F 17/60	2 3 4 S
	2 3 2		2 3 2
	2 3 4		2 3 4 N

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2001-326328(P2001-326328)

(22) 出願日 平成13年10月24日 (2001.10.24)

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 元山 敦司

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(74) 代理人 100086759

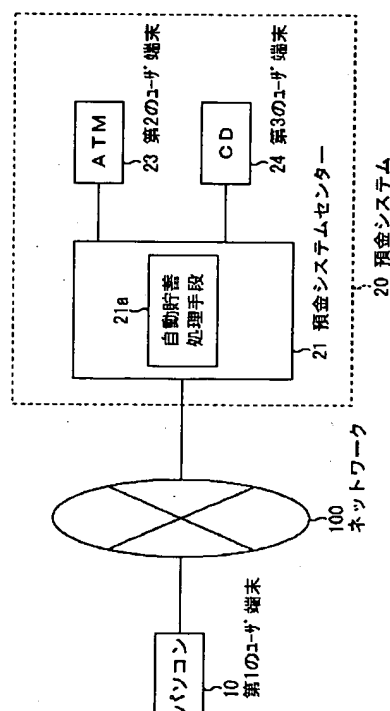
弁理士 渡辺 喜平

(54) 【発明の名称】 自動貯蓄システムおよび自動貯蓄方法

(57) 【要約】

【課題】 金融機関の口座から預金を払い戻しする場合に、払戻額の一部を自動的に貯蓄するようにした自動貯蓄システムおよび自動貯蓄方法を提供する。

【解決手段】 ユーザ端末10、23、24と金融機関システム（預金システムセンター）21とを通信ネットワーク100を介して相互に接続してなり、前記金融機関システムは、該金融機関システムに設けた金融機関口座から利用者が預金を払い戻す場合に、利用者がユーザ端末10、23を介して指定した払戻金額の一部を、自動的に貯蓄する自動貯蓄処理手段21aを備えた。このようにすれば、利用者が自分の金融機関口座から、例えば1万円の払い戻しをする場合に、定額として1000円を自動的に貯蓄することができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ユーザ端末と金融機関システムとを通信ネットワークを介して相互に接続してなり、前記金融機関システムは、該金融機関システムに開設した金融機関口座から利用者が預金を払い戻す場合に、前記利用者がユーザ端末を介して指定した払戻金額の一部を、自動的に貯蓄する自動貯蓄処理手段を備えたことを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項2】 請求項1記載の自動貯蓄システムにおいて、

前記通信ネットワークは、インターネットであることを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項3】 請求項1または請求項2記載の自動貯蓄システムにおいて、

前記自動貯蓄の対象とする金額の範囲を、指定可能にしたことを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項4】 請求項1または請求項2記載の自動貯蓄システムにおいて、

前記自動貯蓄する金額を、指定払戻金額に拘わらずに定額にしたことを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項5】 請求項1または請求項2記載の自動貯蓄システムにおいて、

前記自動貯蓄する金額を、指定払戻金額に対して定率にしたことを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項6】 請求項1乃至請求項5の何れか1つに記載の自動貯蓄システムにおいて、

前記自動貯蓄する金融機関の口座を、払戻元の口座とは別に設けたことを特徴とする自動貯蓄システム。

【請求項7】 金融機関口座から預金を払い戻す場合に、指定した払戻金額の一部を、自動的に貯蓄することを特徴とする自動貯蓄方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動貯蓄システムおよび自動貯蓄方法に関し、特に金融機関の口座から預金の払い戻しをする場合に、払戻額の一部を自動的に貯蓄するようにした自動貯蓄システムおよび自動貯蓄方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】サラリーマン等の一般人の日常生活において、銀行や郵便局等のATM（現金自動預金・支払機）やCD（現金自動支払機）を介して、自分の預金口座から現金の払い戻しを行う場合が多い。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このATM等を介して預金を払い戻す際、払戻額をきりよく「1万円単位」で指定したりするが、現実に必要な現金は「9千円」でよいことも多々ある。即ち、「1万-9000=1000」円だけ余計に払い戻してしまい、この1000円を無駄遣いしてしまうことが多い。一方、サラリー

マン等は月々の小遣い以外に、或る程度まとまった小遣いが必要になる場合がある。また、金融機関にしてみれば預金残高が減ることになり、「塵も積もれば山となる」という諺もあるので、前述の余計な払戻を防止できれば、金融機関の経営上のプラスとなる。

【0004】そこで本発明の課題は、金融機関の口座から預金の払い戻しをする場合に、払戻額の一部を自動的に貯蓄するようにした自動貯蓄システムおよび自動貯蓄方法を提供することである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために本発明は、ユーザ端末と金融機関システムとを通信ネットワークを介して相互に接続してなり、前記金融機関システムは、該金融機関システムに開設した金融機関口座から利用者が預金を払い戻す場合に、前記利用者がユーザ端末を介して指定した払戻金額の一部を、自動的に貯蓄する自動貯蓄処理手段を備えたことを特徴とする。

【0006】このようにすれば、利用者が自分の金融機関（例えばA銀行）の口座から、例えば1万円の払い戻しをする場合に、「定額」として1000円を自動的に貯蓄することができる。この1000円を払戻元の金融機関口座とは別に設けた口座（A銀行でもB銀行等でもよい）に振り込むようにしておけば、払戻をする度に別の口座に貯蓄することになるので、払戻額が累積され、或る程度まとまった金額とすることができる。また、金融機関（例えばA銀行）にしてみれば、利用者が前記別の口座を開設する場合に、同一金融機関（例えばA銀行）に開設してもらえば、該金融機関（A銀行）の預金残高の減少を防止することができる。

## 【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図示の実施形態に基づいて説明する。図1を参照すると、本実施形態は、一般ユーザ（利用者）が備える「ユーザ端末」である第1のユーザ端末10と、銀行等と金融機関が備える預金システム20と、これらを相互に接続する通信ネットワーク100とから構成されている。預金システム20は、預金の預け入れ・払い戻し等の処理を行う「金融機関システム」である預金システムセンター21と、一般ユーザが使用する「ユーザ端末」である第2のユーザ端末23と、一般ユーザが使用する第3のユーザ端末24とを備える。

【0008】第1のユーザ端末10は、パーソナルコンピュータ（パソコン）等の情報処理装置である。預金システムセンター21は、利用者から払戻の指定があった場合に、例えば定額で自動的に貯蓄する処理を行う自動貯蓄処理手段21aを備える。第2のユーザ端末23は、現金自動預金・支払機（ATM）等の預金システムの利用者端末である。第3のユーザ端末24は、現金自動支払機（CD）等の預金システムの利用者端末である。第1のユーザ端末10、第2のユーザ端末23の各

端末は、図2に示す画面30を表示する機能を持ち、自動預金（自動貯蓄）を行うための条件（後述）を預金システムセンター21に設定する。

【0009】図2において、「自動預金する対象額の範囲」としては、例えば「1万」円以上、「10万」円以下に設定する。例えば払戻指定額が50万円の場合は、自動貯蓄を行わずに50万円がそのまま払戻される。このようにすれば、後述の「定率」（例えば20%）の場合に、例えば指定払戻額が100万円であると、20万円が自動預金されてしまうという事態を防止することができる。「自動預金する額」としては、「定額」の場合であれば払戻時の自動預金の金額を一定とし、例えば「2000円」とする。このようにすれば、1万円の払戻指定を行うと、2000円が自動預金され、8000円が払戻され、また払戻指定が5000円であれば、2000円が自動預金され、3000円が払戻される。

【0010】「定率」の場合であれば払戻時の自動預金の金額を一定の割合（定率）とし、払戻の指定金額に対する定率である。また、100円未満を切り捨てるか、100円未満を切り捨てるかの設定を行う。例えば、「定率」を10%に設定し、「1000円未満切捨て」に設定した場合には、払戻の指定金額が「1万」円であれば、自動預金の金額は「1000」円となり払戻金額は9000円となる。また指定金額が「500」円であれば、500円の10%は50円なので、切捨てられてしまい自動預金は行われず、500円が払戻される。なお、自動預金範囲以上の定額での預金指定があった場合には、条件設定時にエラーとして処理する。具体的には、例えば自動預金の上限を10万円に設定した場合に、預金指定の定額が20万円であれば、エラーとして処理し、警告の音声やランプ点滅により利用者に知らせる。

【0011】「自動預金先口座」は、払戻時の自動預金を行う口座であり、金融機関の店番号と口座番号を設定入力する。自動預金先口座は、払戻元とは別に開設した金融機関口座であり、払戻時の自動預金のみを専用扱う口座にしてもよいし、払戻した口座（払戻元口座）にしてもよい。別の金融機関口座や専用口座とすれば、例えばヘソクリ的に或る程度まとまった金額を積み立てることができ、また払戻に伴う無駄遣いを防いだ金額の累計が一目で分かる。

【0012】次に本実施形態の動作を、図3(A)、(B)に示すフローチャートを参照しつつ説明する。図3(A)は預金払戻時のフローチャートであり、図3(B)は預金払戻時に自動預金処理を行う場合のフローチャートである。なお、以降の説明では、ネットワーク100はインターネットであるとする。利用者は、第1のユーザ端末10、第2のユーザ端末23の何れか（以下、第1のユーザ端末10で代表する）に表示される条件設定用の画面30（図2）を通して、予め自動預金に関する条件を設定しておく。自動預金に関する条件の設

定内容は、前述の如く自動預金する対象額の範囲、自動預金する金額の指定（定額、定率）、定率の場合の切り捨て条件、貯蓄用口座（自動預金先口座）の指定である。これら指定した各種データを、予め開設してある普通預金口座等の暗証番号および自動預金をするか否かの指示入力データと共に、ネットワーク100を介して預金システムセンター21に送信する。

【0013】預金システムセンター21は、利用者から送信されたデータ中に含まれる暗証番号に基づいて払戻対象の口座を特定し（ステップA1）、今回の払戻処理が自動預金を行う設定か否かを判断する（ステップA2）。自動預金を行わない指定であれば（ステップA2：No）、払戻指定された金額をそのまま第3のユーザ端末24から払い戻す（ステップA3）。自動預金を行う指定であれば（ステップA2：Yes）、指定された払戻額（ステップB1）に基づき前述の条件と比較し、払戻指定額が事前設定額（例えば1万円以上、10万円以下）の範囲内か否かを判断する（ステップB2）。

【0014】事前設定額の範囲外（例えば20万円）であれば、20万円をそのまま払い戻す（ステップA3）。事前設定額の範囲内であれば、自動預金する額が定額か定率かを判断する（ステップB3）。「定額」であれば払戻額の一部であるその定額（例えば2000円）を、自動的に貯蓄用口座（自動預金先口座、図2参照）に預金（振替）し（ステップB5）、「指定払戻額一定額」の金額を払い戻す（ステップA3）。

【0015】ステップB3において「定率」であれば、切り捨て額以下か否かを判断し（ステップB4）、切捨額以下（例えば100円以下）でない場合は（例えば300円）（ステップB4：No）、自動的に自動預金先口座に預金（振替）し（ステップB5）、「指定払戻額一定額」の金額を払い戻す（ステップA3）。切捨額以下の場合（例えば50円）は（ステップB4：Yes）、自動預金先口座に預金せずに、指定払戻額をそのまま払い戻す（ステップA3）。

【0016】なお、前記実施形態ではユーザ端末およびインターネットを使用する場合を説明したが、例えば金融機関の窓口において、マニュアルで払戻処理を行う場合にも、本発明を適用可能なのは勿論である（請求項7に対応）。また、前記実施形態では第1のユーザ端末10としてパソコンの場合を説明したが、携帯用端末（携帯電話機、PDA等）でも良いのは勿論である。

【0017】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、以下の効果を発揮することができる。利用者にとっての効果として、預金を払い戻せば戻すほど預金も増えていくといううれしい矛盾が発生し、例えば払戻元の口座とは別の口座に、別の預金を累積させることができる。預金システムの提供者にとっての効果は、払戻し額の一部が自動的に預金されることにより預金残高の向上が図れ

る。また、貯蓄口座を利用して定額貯金や定額株式購入、定額投信購入等への発展も期待できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態のシステム構成図である。

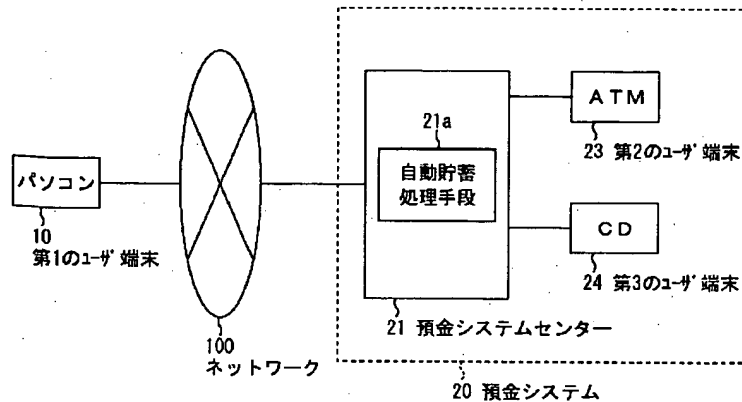
【図2】同実施形態における、ユーザ端末の表示画面の例である。

【図3】同実施形態における動作フローチャートであって、(A)は預金払戻全体のフローチャート、(B)は自動預金処理のフローチャートである。

【符号の説明】

- 10 第1のユーザ端末（パソコン）
- 20 預金システム
- 21 預金システムセンター
- 21a 自動貯蓄処理手段
- 23 第2のユーザ端末（ATM）
- 24 第3のユーザ端末（CD）
- 30 第1、第2のユーザ端末の画面
- 100 通信ネットワーク（インターネット）

【図1】



【図2】

自動預金に関する設定

自動預金する対象額の範囲  円以上  
 円以下

自動預金する額    ○定額  円  
                           ◎定率  %  
                           → ○100円未満切り捨て  
                               ◎1000円未満切り捨て

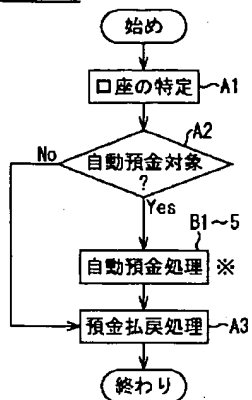
自動預金先口座  
 店番号     口座番号

30 画面

【図3】

預金払戻フロー

(A)



※自動預金処理フロー

(B)

